

「住んでいる外国の方たちと CTN」

NPO 法人 CTN(中信多文化共生ネットワーク)理事長
信州大学グローバル化推進センター教授.
信州自遊塾会員

佐藤友則



今回、本欄を担当させてもらう佐藤です。少しお付き合いください。

CTN <http://ctntabunka.jp/> が発足したのは 2008 年 3 月、約 12 年前です。当時はコロナ・ショック等あるはずもなく、東日本大震災も起きていません。ただ、私の周囲には当時から強い懸念がありました。「学校に通ってない、ハーフなどの子供が多い」「こういった子達は高校進学が難しく、不安定な職について早期結婚し、負の再生産が起きている」という懸念です。残念ながら今も解消されていない巨大な課題です。また、このような懸念もありました。「離婚、職場での怪我、不当解雇等で多くの在住の外国人達が苦しんでいるが、相談できる場がない」というものです。発足時はリーマン・ショックが起きる前でしたが、その 2 年後には全国で「外国人斬り」が発生しました。今のコロナ・ショックも同様、いやさらに深刻です。

このような 2 つの巨大な課題にどうやって立ち向かっていくのか？集まっていた 7 人位のメンバーが発起人になり市民活動としてスタートし、松本市役所の理解を得て 1 年後には市の担当職員を付けていただき、1 年半後には「松本市子ども日本語教育センター」が発足(CTN が市から受託)しました。最初の懸念に対応する体制ができたのです。このような活動は長野県内では松本のみ、全国でも外国人散在地域では稀です。

さらに 2011 年に第 1 次「松本市多文化共生推進プラン」が策定され、「松本市多文化共生プラザ」が 2012 年夏に M ウイング内に発足しました(CTN が受託)。これで発足前の 2 つめの懸念にも道筋がつけられました。

松本市役所と協働しての大きな 2 つの事業の他に、外国由来の子供や在住の人を対象にした日本語教室がいくつか動き出しました。それは今、みんなのにほんご教室(毎週月・木 9 時半～)、ヤングにほんご教室(毎週月・木 18 時～)、中信にほんごひろば庄内&並柳(毎週



ヤングにほんご教室の子ども達と支援者達

日曜 10 時～)という形で続いています。興味のある皆さんの参加をお待ちしています。
(chushin.tn@gmail.com)

しかし、状況は一進一退、抜本的な解決が見えないうちに 2020 年初頭からコロナ・ショックが始まりました。これにより日本社会そのものの大変革がもたらされるでしょう。その時には 293 万人(2019/12 末時点)に及ぶ外国由来の住民を無視した変革は不可能であり、日本という国で、外国由来の住民が日本人と共に生きていく形で再構築されていくでしょう。

皆さんもその流れにぜひ関心を持ち、関わっていただけたらと思います。

2020 年 4 月 27 日

◇ミニコラム 事務局メンバー紹介◇

聲山佐和(うしやまさわ)長野市在住



2017 年秋に行われた福島スタディーツアーに参加し、その時、参加者のカラーが多様だったことと、こんな充実したことを企画できる事務局のメンバーになって一緒に活動したい！と思い、事務局に入りました。

事務局会議では、いろいろなしがらみや変なプライドに縛られず、自由にやりたいことを発信しあえるところがいいなあと思っており、そういう場所に身を置くことができることは喜びです。自分自身も何かしたいことが生まれるようにアンテナを張ってがんばりたいと思っています。

趣味は、去年から始めたマトリョーシカ型電子楽器マトリヨミンという楽器を弾くことです。楽器の見た目の可愛さと裏腹に、思い通りに弾けないことのほうが多いですが、それもまた楽しいです。